



The world needs science, Science needs women

2013 年度
第 8 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
募 集 要 項

日本ロレアル株式会社
(<http://www.nihon-loreal.co.jp>)

後援：日本ユネスコ国内委員会
(<http://www.mext.go.jp/unesco/>)

第8回「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」募集要項

1. 趣旨

世界規模で展開するロレアル・ユネスコの女性科学者を支援する共同プロジェクトの理念を継承し、将来を担う日本の若手女性研究者が研究を継続できるよう、奨励しています。当賞は、国外で研究を行うことができる「ロレアル・ユネスコ奨学金」とは異なり、国内の教育・研究機関において研究を継続できるよう支援するものです。

2. 対象

生命科学、物質科学の分野において、博士後期課程に在籍あるいは、博士後期課程に進学予定の40歳未満*の女性を対象とします。

*下記、応募締切日現在、40歳未満で交付後1年間、国内で教育・研究に従事できる方。留学生は対象外とさせていただきます。

3. 奨学金授与の件数

生命科学、物質科学の分野からそれぞれ原則1年2件(2名)、計4件(4名)を選考し、受賞者に賞状および、奨学金100万円を贈呈します。

4. 受付期間

2012年11月19日(月)から2013年2月28日(木)まで(締切日の消印は有効とします)

5. 応募方法

封筒に、「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」応募書類と必ず明記の上、下記必要書類を「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局 宛に郵送ください。

e-mailでの応募は受け付けておりません。応募書類は返却いたしませんのでご了承ください。

(1) 必要応募書類

- 応募申請書 2部
応募要項(PDF)および応募申請書・指導教員からの推薦状(word ファイル)は、日本ロレアルホームページ<http://www.nihon-loreal.jp/corp/>の **第8回「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」募集開始**からダウンロードできます。
- 履歴書(身分証明書サイズの顔写真貼付) コピー可 2部
- 指導教員からの推薦状 2部
- これまでの研究内容の概要(A4版 2頁以内) 2部
*および別添(A4版 1頁以内)に、研究タイトルとアブストラクトを日英で併記ください。(和文500字/英文200words)
- 今後一年間の研究題目とその概要および今後の展望(A4版 2頁以内) 2部
- 発表論文リスト(口頭発表含む) 著者名は可能なかぎり全員記載 2部
*応募者本人が First author ではない論文は、First author の役職名(発表当時)と、本人の寄与分(%)を明記ください
- 論文別刷(コピー可) 各2部
①既刊および刊行予定の論文(Acceptance Letter 添付) 3編以内 ②学会発表論文(アブストラクト)
*上記①、②に該当する書類がない場合、修士論文で代用可
- 官製はがき(返信先住所・宛名を必ず明記ください) 1枚

(2) 書類送付先

〒163-1071 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー
日本ロレアル株式会社 コーポレート・コミュニケーション本部
「ロレアル・ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局 宛

(3) お問い合わせ先

fwis-japanfellowships@jp.loreal.com

6. 選考

1次審査(書類選考)、2次審査(ヒアリング)を経て、2013年半ばまでに選考委員会により選考のうえ、採否をご連絡します。

7. 発表

2013年に東京で開催予定の授賞式にて発表させていただきます。

2013 年度 第 8 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」 応募申請書

(日付) 年 月 日

①研究分野 該当分野を○で囲むこと	生命科学	物質科学
②氏名 (フリガナ)	Ⓜ	
③生年月日	(西暦) 年 月 日 (歳)	
④自宅連絡先	(住所) 〒 (電話) (携帯) (FAX) (e メールアドレス)	
⑤所属大学連絡先	(住所) 〒 (電話) (FAX) (e メールアドレス)	
⑥所属大学・学部・学科	(大学名) (学部名) (学科名)	
※⑦指導教員推薦状 (添付書式を使用のうえ、封印して郵送ください)		
⑧指導教員連絡先	(氏名) (役職名) (大学名) (学部名) (学科名) (住所) 〒 (電話) (FAX) (e メールアドレス)	
※⑨履歴書 (顔写真貼付) コピー可		
※⑩これまでの研究内容 (A4 2 頁以内 添付) および別添(A4 版 1 頁以内)に、研究タイトルとアブストラクトを日英で併記 (和文 500 字/英文 200 words)		
※⑪今後 1 年間の研究題目と概要および今後の展望 (A4 2 頁以内 添付)		
※⑫発表論文リスト (口頭発表含む)を添付 著者名は可能なかぎり全員記載 応募者本人が First author ではない論文は、First author の役職名(発表当時)と本人の寄与分(%)を明記		
※⑬下記論文別刷 (コピー可)を添付 ①既刊および刊行予定の論文(Acceptance Letter を添付) 3 編以内 ②学会発表論文(アブストラクト) 上記①、②に該当する書類がない場合、修士論文で代用可		
⑭官製はがき (1 枚同封) 返信先住所・宛名を必ず明記ください。		

注 1) ※印の書類は、各 2 部ご用意ください。

注 2) 官製はがきは、1 枚のみご用意のうえ、返信先住所・宛名を必ず明記ください。

**2013 年度 第 8 回「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」
指導教員による推薦状**

(日付) 年 月 日

①指導教員連絡先	(氏名) (役職名) (大学名) (学部・学科名) (住所) 〒 (電話) (FAX) (e メールアドレス)
②応募者氏名 (フリガナ) (3 名まで)	
③推薦理由 (応募者の研究姿勢・研究の進捗状況、専門的知識・技量、着想力・創造力、将来性などについてご記入ください。また、研究の独創性・特色も明記してください。)	

- 注1) 一人の指導教員につき、ご推薦いただく学生は**3名まで**とする。
- 注2) 外部研究機関にて研究を行っている場合は、直接指導を受けている当該機関の教員からの推薦も可能です。その場合は、学生証コピーまたは、所属大学・大学院の在籍証明書を添付してください。
- 注3) 本推薦状は、審査の重要な資料となるので、当該応募者についてできるだけ具体的かつ明確にご記入ください。
- 注4) 本推薦状は、本書以外に新たに用紙を加えることはできません。
- 注5) 本推薦状を封印のうえ、ご郵送ください。

応募者の方へのアンケートのご協力をお願い

今後の参考として、お手数ながら、下記アンケートへのご回答にご協力ください。

- 「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」を何でお知りになりましたか。
該当項目に○印をしてください。（複数回答 可）

○印欄	項目	学会・雑誌名など
	知人からのご紹介	
	大学のホームページ	
	大学の事務からのご紹介	
	大学の先生からのご紹介	
	学会のホームページ	学会名
	学会誌	雑誌名
	新聞・雑誌	新聞・雑誌名
	その他	

- その他のご意見・ご要望

ありがとうございました。

「ロレアルーユネスコ女性科学者 日本奨励賞」事務局

日本奨励賞 歴代受賞者

年度	分野	氏名	所属(受賞時)
2006年	物質科学	高峰 愛子	東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻
	生命科学	佐々木 真理	総合研究大学院大学 生命科学研究科 生理科学専攻
		野中 美応	京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻
2007年	物質科学	神谷 真子	東京大学大学院 薬学系研究科 分子薬学専攻 薬品代謝化学教室
		作田 絵里	北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻 分析化学研究室
		三浦 陽子	名古屋大学大学院 理学研究科 物質理学専攻(物理系) 物質開発物理研究室
	生命科学	黒田 有希子	東京大学大学院 医学系研究科 脳神経医学専攻 脳神経発生・分化卒 (受賞時) 理化学研究所 脳科学総合研究センター 発生神経生物研究チーム
		戸張 靖子	千葉大学大学院 自然科学研究科 多様性科学専攻 関連物質先端科学講座 岡ノ谷研究室卒 (受賞時) 日本医科大学大学院 医学研究科 生体制御形態科学部門
2008年	物質科学	南谷 英美	大阪大学大学院 工学研究科 精密科学・応用物理学専攻
		田中 奈津美	早稲田大学大学院 先進理工学研究科 化学・生命化学専攻 化学合成法研究室
	生命科学	覚道 奈津子	関西医科大学大学院 医学研究科 博士課程 高次機能制御系 形成外科学 専攻
		大西 なおみ	北海道大学大学院 理学研究科 化学専攻(於 遺伝子病制御研究所 分子腫瘍分野)
2009年	物質科学	海老根 真琴	東北大学大学院 理学研究科
		大串 裕子	九州大学大学院 工学府 物質プロセス工学専攻
	生命科学	岩井 玲奈	東京大学大学院 医学系研究科 神経機能解明ユニット
		富田 文菜	東京工業大学 フロンティア研究センター
2010年	物質科学	中村 優希	東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻
		富永 依里子	京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 設計工学専攻
	生命科学	依田 真由子	東京大学大学院 新領域創成科学研究科 メディカルゲノム専攻
		野澤 佳世	東京大学大学院 理学系研究科 生物化学専攻
2011年	物質科学	植田 桐加	名古屋大学大学院 理学研究科 物質理学専攻(化学系) 伊丹研究室
		竹原 由佳	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 物理科学コース 奥村研究室
	生命科学	水沼 未雅	東京大学大学院 薬学系研究科 薬品作用学教室
		森田 真規子	広島大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 細胞生物学研究室
2012年	物質科学	客野 遥	首都大学東京大学院 理工学研究科 物理学専攻
		工藤 まゆみ	お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 理学専攻 化学・生物化学領域
	生命科学	高田 朱弥	東京大学大学院 医学系研究科 内科学専攻(消化器内科)
		中泉 敦子	大阪医科大学大学院 医学部 眼科学

(参考)

ロレアルグループとユネスコ — 世界規模で女性科学者を支援する社会貢献活動について

パリに本社を置くロレアルグループと国連専門機関のユネスコは、世界の女性科学者の業績を称えるとともに、同分野で活躍する女性たちの世界レベルでの更なる飛躍と地位向上を目的に、1998年に共同で女性科学者を支援するプロジェクトを創設しました。同プロジェクトには次の3つのカテゴリがあり、プロジェクト1、2は、いずれも世界規模で展開しています。全プロジェクトを通じて、これまでに106カ国から1,300名以上の女性科学者が表彰されました。

1. 「ロレアル-ユネスコ女性科学賞」(本社主催): 日本人受賞者4名のほか、ノーベル受賞者も輩出

世界の科学の発展に寄与した女性科学者の業績を称えるものです。

日本からは、2000年に分子生物学の草分け的存在で、DNAの不連続複製「岡崎フラグメント」で知られる岡崎恒子(名古屋大学名誉教授)が、2005年にアモルファス半導体および液体金属の先駆的理論とコンピューター・シミュレーションによる解明の功績により、物理学者米沢富美子(慶応義塾大学 名誉教授)が、2009年には世界で初めて単一分子性金属の設計と合成に成功し、分子性伝導体の開発研究への多大な貢献により、化学者小林昭子(日本大学文理学部化学科教授、東京大学名誉教授)が受賞しています。2013年は、分子構造の左右性の違いが自然界に広く現れる左右性(キラリティー)現象に重要であることを明らかにし、アルツハイマーなどの神経変性疾患研究など幅広い応用研究にもつなげる多大な貢献を成し遂げた化学者黒田玲子(東京理科大学総合研究機構教授、東京大学名誉教授)が受賞しており、日本からは4人目という快挙になります。

また、ロレアル-ユネスコ女性科学賞の2008年の米国受賞者であるエリザベス・ブラックバーンと、欧州受賞者であるアダ・ヨナットが、それぞれ2009年ノーベル医学・生理学賞およびノーベル化学賞を受賞するという快挙を遂げています。

2. 「ロレアル-ユネスコ奨学金」(本社主催):

博士課程または博士研究員レベルの若手女性科学者が、自国以外の希望する研究・教育機関で二年間研究できるよう奨励し、助成しています。

3. 「ロレアル-ユネスコ国内賞」(各国ごとに主催):

ロレアルグループでは、現在、日本をはじめ、各国において、同プロジェクトの理念を継承し、博士課程などの若手女性科学者が自国内の研究・教育機関で一年間研究を継続できるよう奨励し、助成しています。

なぜ、ロレアルグループとユネスコとの共同創設賞なのでしょう？

ロレアルグループは、1909年の創立当初から研究活動を最重要視し、化粧品科学を一つの独立した科学分野へと育て上げてきました。また、女性研究者を積極的に登用しており、3,700人の研究者のうち、女性が占める割合は55%以上にも上ります。一方、ユネスコも女性の科学への参画を優先課題に掲げ、数多くのプログラムを推進しています。こうした共通の理念のもと、ロレアル-ユネスコの共同プロジェクトは創設されました。

【ロレアルグループについて】

ロレアルグループは、1909年にパリで化学者によって設立され、世界130カ国・地域で事業を展開し、69,000人の従業員を擁する世界最大の化粧品会社です。「ヘレナ ルビンスタイン」「ランコム」「シュウ ウェムラ」「キールズ」「イヴ・サンローラン」「ロレアル パリ」「メイベリン ニューヨーク」など27のブランドをグローバル規模で展開しています。

日本においては、1963年から事業を開始し、1996年に日本法人である**日本ロレアル株式会社**が設立されました。2,200人の従業員を擁し、化粧品の輸入、製造、販売、マーケティングを行っており、2013年には、日本でビジネスを開始して50周年を迎えます。現在、上記のブランドを含め18のブランドを取り扱っています。30年以上前から日本に研究開発拠点を置き、現在、日本ロレアル リサーチ&イノベーションセンター(川崎市・溝の口)として、日本をはじめ、アジアの研究開発を統括しています。210名以上の研究者を有し、うち女性研究者は63%を占めています。2012年には、同センターのトップに、初めて日本人女性が就任しています。

【ユネスコについて】

1945年に設立されたユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は、本部をパリに置き、諸国民の教育、科学、文化の協力と交流を通じた国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関です。2011年11月23日現在の加盟国数は195カ国あり、また世界53カ所に地域事務所を置いて活動を展開しています。

日本では「ユネスコ活動に関する法律」に基づき、文部科学省に置かれる特別の機関として**日本ユネスコ国内委員会**が設置されています。日本ユネスコ国内委員会は、教育、科学、文化等の各分野を代表する60名以内の委員で構成され、我が国におけるユネスコ活動の基本方針の策定、ユネスコ活動に関する助言、企画、連絡及び調査等を行っています。日本ユネスコ国内委員会事務局は文部科学省に置かれ、文部科学省国際統括官が日本ユネスコ国内委員会事務総長を務めています。